

浅沼利一郎さんの話

宮沢賢治はなぜ早池峰に魅かれたか

大迫と宮沢賢治

---

浅沼利一郎 賢治さんが歩いた山はほとんどが鉱山です。22歳の時に1回早池峰に入ってるけど、あとは身体の具合が悪くなって農学校の先生やめるという時になってからだね、早池峰に来るのは。

竹久海 大迫と賢治というと石川旅館が出て来ますね。

それと結婚相手としての大迫の女性も。それは柴太さん(県議・村田柴太氏)のお母さんのことだったと言う人がいますが。

---

浅沼 そうそう、それ間違いなく柴太さんのお母さんのこと。

竹久 えっ、ホント

---

浅沼 私、2冊目の本書いた時に柴太さんに確かめたんですよ。間違ったこと書いたのでは申し訳ないから。そしたらね「子ども心に、それは確かにそうだった」と言っていましたから。

「カラスと北斗星」の中にカラスの兵隊の隊長さんがこれから戦争に行く時に許婚のいる方向に向かって「戦争さ行く」って言う。でも、その相手の名前も聞こうとしない。カラスに気持ちを置き換えて賢治の心そのものなんですよ。

竹久 あの、いきなり賢治の話から入ってしまいました(笑)。浅沼さんのこと伺いますね、お幾つです？

---

浅沼 昭和15年生まれの55歳です。

竹久 浅沼さんは夏は週1回、冬でも月1回は早池峰に登るそうですね。宮沢賢治と早池峰山をテーマにした本も2冊お書きになっている。早池峰には何歳ごろから登り始めたんですか。

---

浅沼 中学出してから20歳まで花巻の自転車屋で丁稚奉公したんですよ。初めて登ったのは12歳、丁稚時代も休みという休みは早池峰山に登ってた。当時の兄弟子に今でも「んなハ休みってば山さ行って、雨降れば2階で本読んでる奴だったもナ」って言われる。

竹久 その頃から賢治を読んでいた？

---

浅沼 いやいや宮沢賢治全然知らねの。ただね、丁稚時代から早池峰へ行っているとね、きれいな花コ咲いててそれを書いてらったんですよ。花の出会いとか朝日とか、おら木の町長(村田柴太氏)の言ったモルゲンロードとかね。

竹久 感動を書き留めていたんですね。

---

浅沼 賢治と大迫と言うことでは昭和 22 年かな？片山明彦や大泉滉が、大迫や滝沢をロケして「風の又三郎」の映画が出来た。「おら木の所が原作を生んだ地だ」ってどこも言うんだけど。

良っく読んでみると又三郎がタバコの葉っぱ折るところがあるんですよ。そうすると嘉助っていう子が「ア、おらハ知らねじエ。タバコの葉っぱ折って。くらいるゾ、専売所にくらいるゾ」という。これはね、南部葉なんですよ。南部葉だけは一枚一枚葉を数えてね、一本のタバコに何枚と専売局に報告しなきゃならない。

竹久 南部葉の栽培というのは大迫だけですか。

---

浅沼 そうそう、ずっと大迫だけでやってきた。だから南部葉っていうと、大迫。「モリブデン」という言葉も出てくるんだがこれも猫山の近くから試掘してるんですよ。

竹久 きっと、いろいろな場所が作品の背景になっているのでしょうか。早池峰を自分の庭のように歩き回ってる浅沼さんの目で賢治を見れば、面白い発見が沢山ありそうですね。

#### 4億6千5百万年の神秘

---

浅沼 賢治の詩との出会いは早池峰の河原の坊なんですよ。賢治が河原の坊で野宿して目が覚めたら行者が現れて というのあるでしょう。

竹久 「河原の坊(山脚の黎明)」ですか、二人の僧が念仏を唱えながら峰を下りて来て自分を通り過ぎて行くという。賢治が金縛りにあって動けなかったという詩ですね。

---

浅沼 私も河原の坊で全く同じ体験をしてるんですよ、まだ賢治の詩を知らない時です。休んでウトウトしているような状態の時にそういう事があって私の手帳に書いてらったんです。

「こんな不思議な事も早池峰を歩いていると起きる。俺もこれ、本コ書きいたら良かべか」と思って書き始めた。してね、賢治さんの本読むようになったら早池峰山の事いっぱい書いてある。22~23 あるけど賢治さんは頭で想像して書いたものは一つもない。

ぜんぶ実際の事ばかり俺が登り始めた頃はまだ蒸気機関車だったから、煙とか陸橋を渡る音とか、汽笛とか、赤いシグナルなんかも見えてたんですよ、早池峰山からね。

竹久 まあ、早池峰山の頂上からですか。

---

浅沼 だから「銀河鉄道もそこじゃねか」となると銀河鉄道を語る前に、宮沢賢治を語る前に 早池峰山は4億6千5百万年という地球でも最も古い地層なんですよ。そうすると賢治さんは地質に対する知識も優れた人だったから、そのことは十分わかって早池峰山に登る。頂上からね、銀河がこの状態で見える。

ここからぐるりと、銀河。まてよ、と。俺も銀河鉄道をちゃんと読んでみるべきなんだな、と思って読んでみた。したらば、読めば読むほどに出発点が大迫の「石川旅館」だ。ジョバンニがお母さんの牛乳とってくるシーンなんかも、学校あって郵便局あって牛乳屋あって牛屋さんあって、石川旅館から中町への通りそのまま。

竹久 銀河鉄道の出発点が大迫だったとは！やはり石川旅館から、早池峰への行程というかコースを書簡で賢治は書いてますね。

---

浅沼 書いてる、書いてる、石川旅館から父親に宛て。下の橋を渡ってずうっと行って、それこそ竹久さんの所の立石を右に曲がって、。。

竹久 ん？立石を曲がるんですか。

---

浅沼 真つすぐのはね、新しい道なの。

竹久 その旧道は今でもありますか？

---

浅沼 開発されて寸断しているけど、有りますよ。賢治に「夜をこめて行く歌」というのがあってね、この道を通って稜線に出たときに「鶏頭山が真つ赤に染まっていた」というのがある。夜明けの時ね、凄いよ。

竹久 そうしますとね、「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」と大迫を背景にして次々と名作が生まれたことにはなりますが、賢治は大迫のどういうところに魅かれたのでしょうか。

---

浅沼 だからね、やっぱり早池峰の古さと大迫のそういうものに賢治さん相当に何て言ったらいいか言葉が出て来ないけど、身震いする位の出会いがあったのだと思う。

だから賢治が土地の人でも歩けないような山をあんなに歩いたのだと思うのス、身体が悪いのにね。俺たちでさえ一日であんなに歩けねもの。今度ね雪解けたれば、そういうな所歩いてみましょ。

竹久 ええ、ぜひ連れて行って下さい。

---

注文の多い料理店も！

---

浅沼 賢治の足跡をたどったり読んだりすると、どうも根底に大迫が深くあるような感じがするんだよね。「注文の多い料理店」なんかは内川目の「猫底」なんですよ。なぜそう思ったかという、入り口は折壁からくる沢でこう分かれてるんですね。「猫底」という所は奥に入っていくと行き止まりで沢もほとんどチョロチョロとしかなくなって、普通にはとても考えられないような所なんです。古老に聞いた話では「猫底づ所には霜柱が立たない」というんです。

竹久 何故です？

---

浅沼 鉱山なんですよ、やっぱり。猫底には大金山があってお女郎さんがいっぱい居たという位繁盛した金山なんだそうです。ところがね、その裏側が大ヶ生(おおがゆ)なんですよ。

竹久 ははア、紫波の金山ね。地理的にそういう場所なんですか。

---

浅沼 そうなの、そうなの。だからネ、これも一致するんですよ。恐らく賢治さんは地質を調べるかなんかで入って行ったと思うんですよ。山に入ればどん詰まりで、出るに出られなくなる。

竹久 そういう地形の所を調査で入れたかして、賢治は「注文の 」を発想したかも知れないわね。奥山の中で風はザワザワと吹いて道は行き止まり、恐ろしい思いをした。これは面白い。大迫町はもう少しこういう材料を外に向けてアピールしないとイケないわね。

---

浅沼 猫底はそういう所でね。

さっき言ったようにザワザワと風騒ぐエ、何だかゾクゾクとして。

竹久 アンテナの感度が良ければ、いろんな感覚がキャッチ出来るんですね。

---

浅沼 出来る、出来る。俺みたいな凡人でもお山に入ると、いっぺいいろんなもの感じるからネ。

賢治は早池峰をまだまだ書き足りねかった

---

浅沼 以前は河原の坊に古い寺の土台があったんですよ。修験者の草鞋がいっぱい掛かっていたりして、白髭の大水で流されたとなっているんだけど。今は舗装道路の下になっている場所でね。で、昔は山頂で寝転んで空見るとホントに汽車の音が聞こえてきたんだから。こっちは星空だもの、汽笛、赤いシグナル、橋を渡るゴーツという音。

川井村の平津戸駅の方からね。

竹久 星空だろうし、シグナルだろうし陸橋を渡る音だろうしという、賢治作品の生まれる材料は早池峰山にそろっていますね。

---

浅沼 ああ、材料はそろっている。山を歩いてみるとよく分かる。そだから、歩いて見ねば。

竹久 そうですね、やっぱり歩いてみないと駄目ですね。う〜ん、でもね。賢治がそこまで早池峰に魅かれたのは何だったのでしょうか。これはそのまま浅沼さんへの質問になりますが。

---

浅沼 それはやっぱり、4億6千5百万年という早池峰の古さと美しい宇宙を知って恐らくゾツとするほどの何かあってね、物凄いスピードで文を書いたと思うんです。清六さんも言ってたが「とてもじゃないが1カ月何千枚の原稿なんか誰も書けない」っ

て。それを賢治が書いてるんですからそれでもまだまだ書き足りねかったと思う。お山に行くとね「これ賢治さん書きたかったべな一、こういうのも賢治さん書きたかってんでねか」と思う事がずいぶんある。

竹久 浅沼さんは早池峰山の風景を賢治と同じ視点でとらえているのでしょうね。賢治が書き残した風景をぜひ書いて下さいね。今日は4億6千5百万年の神秘に触れた賢治の感動が、浅沼さんを通して伝わって来るようなお話でした。有り難うございました。